

ひょうご事業改善レビューシート

様式 1

レビュー項目 (事業名)	兵庫の防災教育の推進 (学校安全総合支援事業)				部(局)	教育委員会事務局	
					所管課	教育企画課	
					担当班	教育企画班	
					連絡先	078-362-3214	
開始年度	平成24年度	終了年度	—	関連計画等	第3期ひょうご教育創造プラン		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	兵庫県	
事業目的	阪神・淡路大震災から四半世紀が経過する中で、震災の記憶が風化することを防ぐとともに、その経験と教訓をいかし、南海トラフ巨大地震や多発する自然災害に備えるため、主体的に判断して実践する力、助け合いやボランティア精神等共生の心を育成する「兵庫の防災教育」の推進を図る。						
事業概要	(1) 高等学校等防災ジュニアリーダー育成 (2) 学校防災体制・防災教育の充実と展開 (3) 気象災害に対する防災教育の充実と展開 (4) 防災教育に関する取組の県内周知 (5) 震災・学校支援チーム (EARTH) に関する教職員の育成						
これまでの改善状況	・児童生徒や教職員にとって身近な気象の専門家を活用し、近年多発する気象災害に対する防災教育の推進及び防災体制の構築へ繋げるため、令和3年度より気象災害モデル校を指定。 ・防災に関する指定校の優れた取組を県内に周知し、各校での防災教育の推進につなげるため、令和3年度より実践事例集を作成。						
業務フロー	文部科学省と委託契約(5月)→事業実施→事業報告(3月) (1) 学習会(7月)→被災地ボランティア(8月)→活動報告会(11月) (2) アドバイザー派遣(6月～)→活動報告(2月) (3) 講演会・専門家派遣(6月～)→活動報告(2月) (4) 実践事例集の作成・発行(2月) (5) 養成講座の実施(6・8・11月)→全体訓練研修会(7月)→地区別訓練研修会(9月)						
事業に要するコスト	区 分		2年度決算額	3年度決算額	4年度当初予算額	5年度当初予算額	
	事業費①		1,634 千円	4,843 千円	13,583 千円	14,386 千円	
	経費内訳	報酬・賃金					
		委託料					
		補助金・交付金					
		貸付金					
		その他	1,634 千円	4,843 千円	13,583 千円	14,386 千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(1,634千円)	(4,843千円)	(13,583千円)	(14,386千円)	
		(特定)					
		(起債)					
		(一般財源)					
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		5,486 千円	10,738 千円	13,583 千円	14,386 千円	
	執行率((①/②)×100)		29.8%	45.1%	100.0%	100.0%	
人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.8人	従事人員 0.8人	従事人員 0.8人	従事人員 0.8人		
		6,637 千円	6,581 千円	6,895 千円	6,896 千円		
職員給与費	a	5,750 千円	5,682 千円	6,008 千円	5,997 千円		
賞与引当金繰入額	b	464 千円	458 千円	464 千円	458 千円		
退職手当引当金繰入額	c	423 千円	441 千円	423 千円	441 千円		
総コスト(①+③)		8,271 千円	11,424 千円	20,478 千円	21,282 千円		

ひょうご事業改善レビューシート

様式 1

指標名		区分	2年度実績	3年度実績	4年度見込	5年度目標	最終目標【年度】
評	成果指標(アウトカム指標①) 「兵庫の防災教育」の推進を図るため、県内公立学校の授業内での防災教育の実施率	目 標	90	91	92	93	93
		実績(見込)	90.6	92.1	(92.4)		【令和5年度】
		(単位当たりコスト)	(91千円)	(124千円)	(222千円)	--	
価	成果指標(アウトカム指標②) 防災ジュニアリーダーになった人数	目 標	150	150	150	150	150
		実績(見込)	69	107	(152)		【毎年度】
		(単位当たりコスト)	(120千円)	(107千円)	(135千円)	--	
指	活動指標(アウトカム指標③) 地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合(小学校)	目 標	55	60	65	70	70
		実績(見込)	36.1	38.4	41.6		【令和5年度】
		(単位当たりコスト)	(229千円)	(298千円)	--	--	
標	活動指標(アウトカム指標②) 地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合(中学校)	目 標	40	45	50	55	55
		実績(見込)	21.8	22.8	24.3		【令和5年度】
		(単位当たりコスト)	(379千円)	(501千円)	(843千円)	--	
標	活動指標(アウトカム指標③) 地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合(高等学校)	目 標	55	60	65	70	70
		実績(見込)	36.1	38.4	41.6		【令和5年度】
		(単位当たりコスト)	(229千円)	(298千円)	--	--	
終期設定		有 ()					無
改善基準		—					
自	評価の視点		評価		目標に対する達成状況(総合的評価)		
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める教育を推進するとともに、学校防災体制と防災教育の充実を図るため、指定校を指定し、その成果を普及することを通じて、兵庫の防災教育の一層の充実を図っているため、有効である。		学校安全総合支援事業を実施することにより、県内公立学校の授業内での防災教育の実施率は増加傾向にある。 震災の記憶が風化することを防ぐとともに、その経験と教訓をいかし、南海トラフ巨大地震や多発する自然災害に備えるため、主体的に判断して実践する力、助け合いやボランティア精神等共生の心を育成するために、事業を継続する必要がある。		
己	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫を行っているか など		文部科学省委託事業「学校安全総合支援事業」を活用し、効率的に実施している。				
	課題・今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (近年多発する気象災害や今後南海トラフ巨大地震の発生が予測される中、より実践的な防災教育や地域・関係機関等との連携した防災教育の取組手法と県内の学校への普及が課題であることから、今後より一層取り組んでいくべき事項について検討を行う。)						
外部委員 意見	・生徒らに震災の爪痕の残っている現場を見せるなど、生徒への防災に対する内発的な動機づけが重要である。そういった動機付けの研修や取組を何回したか等をアウトプット指標にしてはどうか。 ・高校卒業後も地域で防災の担い手となって活動してもらえよう防災リーダー制度との連携を図られたい。 ・防災ジュニアリーダーになった人数をアウトカム指標にしてもいいのではないかと。 ・地域ごとに想定される災害は違うので、取組の整理・分類をして必要な地域に展開されたい。						
	改善結果 ・防災への内発的な動機を高めるため、阪神・淡路大震災に関連する授業や行事(特別活動)に引き続き取り組む。 ・防災ジュニアリーダーに対して、防災リーダー制度について紹介。 ・防災ジュニアリーダーになった数をアウトカム指標に設定。 ・各地域の特性を踏まえた防災教育を引き続き実施。						